（４）外部との連携について①
～医療等編～

医療機関に定期的に通っている生徒を、初めて担任します。
どのように主治医と連携したらよいか分かりません。

（ａ）医療との連携がなぜ必要なのか？

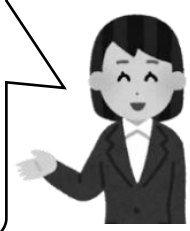
子どもの健康状態を知ることは、教育を進める上でとても重要な要素の一つです。主治医と連携し、その子の障がいや病気の状態、治療についての基本的な情報を得ることで、その子の今の状態や学習活動を進める上での配慮事項を知ることができます。

（ｂ）医療との連携・協働を進めていくための教育側としての３つの留意点

①障がい・病気・安全・感染予防等についての理解
子どもの障がいや病気、治療等について基本的な情報を得ることはとても重要です。
②必要な情報の共有と管理の重要性
医療スタッフと必要な情報を共有しながら、子どもと家族への理解を深めることは、支援や指導の質を高めていくことに直結します。
③教育への理解を深める取り組み
子ども、保護者、そして医療スタッフにとって、教育のイメージは多様です。授業公開、学習発表会、作品展示、学級通信等のさまざまな機会を活用しながら医療スタッフに伝え、理解を深めていくことも教育側の大切な役割です。
～これらのことに留意して、主治医と連携していくことが大切です。～

医療機関との連携で気を付けることはありますか？

治療を目的とする医療と教育ではその目的が異なっていることを念頭におくことです。
教員は、それぞれの子どもに合った教育活動を進めるため、学校としてできる適切な対応の仕方を考えた上で、主治医からの助言を得ましょう。
なお、医療との連携は、保護者の承諾を得て行う必要があります。



引用・参考：国立特別支援教育総合研究所　専門研究Ｂ「重度・重複障害のある子どもの実態把握、教育目標・内容の設定、及び評価等に資する情報パッケージの開発研究研究　成果報告書　資料２」（平成 25-26 年度）

（ｃ）「障がい」で見るのではなく、「今の状態」を見ることが大切

同じ障がい名や疾患名であっても、それぞれの子どもの状態や配慮事項は異なるので、障がい等に関連してどのような生活上の制限や、困難があるのか、それに対し、どのような支援をすればよいのか、一人一人について理解する必要があります。長期的な視点で教育活動を実践していくためには、重要な情報となります。

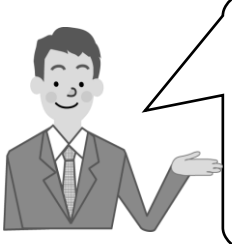
また、アレルギーやアナフィラキシー、心疾患、腎疾患、てんかん等の状態など、主治医とよく相談し、今の個人の状態を理解して対応を確認しておきましょう。また、この他にも、学校における医療的ケアに関することや、発作等への対応に関することなどについても情報を収集しましょう。

病気のため日常生活に支援を必要とする子どもや入院している子どもへの支援については、福島県教育庁特別支援教育課の Web サイト、または、福島県特別支援教育センターWeb サイト「入院児童生徒の学習支援」に掲載している「病気の子どもや入院している子どもの支援ガイド」＊1 をご覧ください。

（ｄ）「聞く」だけではなく、今の状態を「伝える」ことも連携

私たちの見ている子どもの姿は外来の時のみ。
これに対して学校では長時間、子どもの様々な姿を見ています。その姿をぜひ伝えてください。
それが、その子の正確な“今の姿”を判断することにつながり、本人・保護者を含め、みなさんに必要な情報をお伝えすることができるのです。

ある専門医



お互い多忙な中でのやりとりです。保護者の同意を得ていても、直接の面談や電話等が難しい場合は、質問事項とともに「最近の子どもの姿」と題した学校での様子をまとめた簡単な文書を、保護者をとおして医師に渡す例もあります。

医師も、その子どもの支援チームの一員です！「共に支える」ことを念頭に、積極的に情報共有していきましょう。

子どもたちの医療等に関する情報　おろそかにしていませんか？

＊1　福島県特別支援教育センターで、平成 28-29 年度調査研究において「入院児童生徒等の学習状況調査と支援体制の整備」に取り組んできました。具体的な連携例については、研究紀要第 31 号をご覧ください。

参考：阿久澤栄「指導の充実・改善に向けた専門家との協働」,『特別支援教育研究』2013 年 11 月号